29回三泗小中学校社会科作品展　出品作品

学校番号	出品番号
37	5

学校名	四日市市立小山田小学校	備考
学年	第 6 学年	
名前	矢田（やだ）　隆一（りゅういち）	
題名	四日市の歴史石造物	

四日市の

歴史石造物

小山田小学校　6年　矢田　隆一

調べたいと思った理由

図書館で四日市の歴史的石造物と言う本を読んでみたら興味が出てきてもっと知りたいと思いました。
見た事がない「力石」やおじいちゃんの家に行く時にいつも見ている「常夜燈」や本にのっていた「常夜燈」など石で出来ている物を調べたくなりました。

調べた方法

図書館で借りてきた本を参考にして、どこの場所にあるか、家にあった地図に印をして、写真を撮りたい場所に行きました。
本にのっていた写真と比べて同じ事を確認してから写真を撮りました。
その場所になかった時は、近くの家の人に聞いたりその地区の市民センターへ行って聞きました。

力石について

力石とは、江戸時代から昭和初期頃に力試し、力くらべをするために使われた石。
昔の農村の青年は米俵を担ぐなど力仕事をすることが多く、力試しをよくした。
神社の境内などにある大きな石を持ち上げて力を競った。
一人前の青年の資格として米俵を担いで一定の距離を歩かせることも行われた。

「力石の競技方法」

1、石担ぎ
2、石ざし
3、片手留
4、曲持ち

5、振りさし
6、石回し
7、たすき掛け
8、石運び

9、足ざし
10、石立て
11、石投げ
12、地切り

「力石の形」

ほとんどが楕円形（だえんけい）で表面に凹凸が少ない自然石。

「力石の刻字」

重量、名前、年代などが刻まれたものがある。

「力石の重量」

75kg～112.5kg前後が多い。米俵一俵(60kg)を基準としてそれ以上の重量で競っていた。

常夜燈について

常夜燈とは神仏を供養するために昼夜、灯し続けられている灯明。
神社仏閣に多くは一対で安置されている。
夜道の安全のため街道沿いに設置されている常夜燈は現在で言う街灯の役目を果たしており街道の道しるべとして設置されているものが多い。
主な型式には「四角形」「宮立形」「矢倉形」「自然石」などがある。竿石に彫られた銘文には「両宮常夜燈」「永代常夜燈」「奉燈」「太一」「太神宮」などがあります。

旧集会所前広場(小牧町南)

力石が2つあり、1つは球形で、もう1つは、長方形です。
広場の端の方に他の石といっしょにひっそりと置いてありました。
球形の力石はここだけだった。

直径36cmの球形

70×32×22cm

穂積神社(広永町)

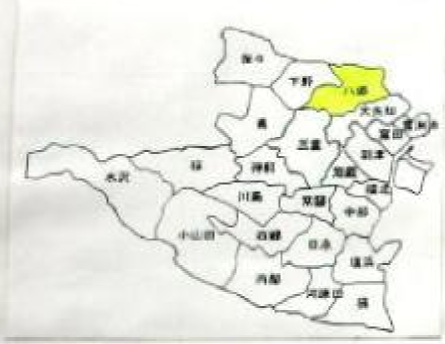
由来文によると「旧広永村時代より昭和初期まで、広永の若者達が事ある毎に力くらべに使用していた石である。」と書いてあります。

力石は、3つあり木に囲まれた場所に「健康と長寿」を願ってきちんとかざられていました。3つともよく似た形をしていた。

右側 37貫目(138kg)
72×40×23cm

中央 39貫目(146kg)
76×41×24cm

左側 30貫目(112kg)
70×31×25cm



伊坂町地蔵堂 本尊

伊坂町がおまつりしている地蔵堂があってその本尊が昔の「力石」でさらしに巻かれ堂内の扉内に納まっていると伝えられている。

中に入っているので見る事が出来なくて残念でした。
どれくらいの大きさなのか見てみたいです。

上　75×37×24cm

下　60×33×30cm

明願寺(天カ須賀)

明治の中頃から大正にかけて当時の青年娯楽は相撲や力くらべなどがさかんに行われた。
当時20才～25才ぐらいの若者が神社境内などで遊びを取り入れた体力づくりをしたが肩まで担ぎあげる人は、何人もいなかったと説明板に書いてあります。

他の場所の力石よりも形がでこぼことしていた。

聖武天皇社(松原町)

由来文によると「800年もの昔より、若衆らが体力を試さんと競いあってこの石を持ち上げた。"健康の石"と呼び、祭礼に行事にゆかりの深い石として松原村に保存されてきた。」と書いてある。

大 76×43×25cm 約150kg

小 49×26×23cm

きちんと保存されていて石もきれいだった。横には、石喰松という松の木に石が入っているめずらしいものがありました。

八幡神社(富田3丁目、西町)

八幡神社の力石は、力比べ体力を養うことを対象にしたものであり、この石に触れることによって健康長寿への信仰を深めた。昔の人々のこの思いを引き継ぎ神前に捧げ保存することにした。

78×39×25cm

約100kg

気付かずに通り過ぎてしまいそうな場所にあったけどきちんとかざられていた。

若宮八幡神社(南富田町)

説明文は、富田3丁目の八幡神社と同じ内容でした。この石に触れることによって健康長寿への信仰を深めたと書いてあったのでさわってみました。見た目は、ザラザラとしているような気がしたけどつるつるしていました。

84×34×30cm 約100kg

証円寺北(茂福町)

説明文には、明治中頃この村にある二ヶ寺の御堂を再建する時に土台石の奉納があって、その時、土台石の中からこの石を選んで休憩時に体力を試さんと持ち上げ競い合った。と書いてあります。

大 75×32×25cm 約120kg
小 33×19×12cm 約19kg

細い道だけど車がたくさん通る道にあって気付かず通り過ぎそうでした。小さい石は、子供用かもしれないそうです。

末永神明社(末永町)

この神社には、3個の力石があり以前は、境内の地面に置かれていたけど現在、2個は、台座に固定されている。この神社は、昔から歯痛が治ると言われていて本殿の前に歯ブラシを入れる箱が置いてありました。

68×33×30cm

60×30×20cm

57×25×30cm

御厨飽良川(あくらがわ)神社(西阿倉川)

左側 60×35×27cm

中央 65×32×30cm

右側 70×38×26cm

説明文は、いつ頃か定かでないが村の若い衆が集まっては、この石を持ち上げて力比べをする風習が永らくつづいた。この石の置き場も転々としたが今は先人たちの息吹を伝えるため地区の遺産としてここに保存する。と書いてあります。

3つとも大きな石でした。3つ保存してあるのは、3ケ所だけです。

右側　60×30×20cm

左側　68×33×30cm

吉田神社(八王子町)

説明文に青年の力自慢に使われたもので担いだ者が一人前の男として認められたと書いてある。

石段を登って右側に「奉納　力石」と書いてある台座に固定されていた。
石に巻かれていたはずの縄が切れていたのが気になった。

竹内　登さん宅(六名町)

昔は氏神の須賀神社境内にありました。
約70年前より現在の位置にあり中央が細く欠けているので練習がらくに出来たと伝えられている。

60X30X22cm　約75kg

個人の家だったので写真を撮らせて下さいとお願いしました。
前は力石と書いたのが石の前にあったと言っていました。
変わった形でさわったらザラザラしていました。

旧公会所南隣（山田町）

58×27×28cm

旧山田青年クラブ兼集会所にあったもので大正初期の青年団員の力くらべに使用した。

草がたくさん生えていて見えなかったのであきらめていたけど自治会の方のおかげで見る事が出来ました。思っていたよりも石の厚みがあって大きく感じました。町内の人が見える所に保存してほしいと思いました。

小倉集会所(楠町小倉)

昭和27年頃まで青年団集会時に現公民館前で「力石」を持ち上げ、力自慢をした。昔は高下駄をはいてかつぎ、どこまで歩いたか競争をしたそうです。

横から見た形で下が半分ぐらい埋まっているが高さ60cm

前は、公民館の横に置いてあったけど現在は、近くの公園に移動していました。上から見ると丸に見えた。下は半分ぐらい埋まっていたので大きさを確認できなかった。

上から見ると丸形　上部直径30cm

瓜生神明社(楠町南川)

73×38×22cm
75kg～94kgぐらい

明治20年頃鈴鹿山脈の伊船の山から当時の青年が何人か交代で担いできたと言い伝えがある。「伊船石」と石銘が付いているのは、三重県ではめずらしいそうです。

神明社の公園の所に置かれていた。川のすぐ近くで静かな場所でした。一番最初に写真を撮りに行った力石だったので「これが力石かあ」と思いました。

小牧神崎の常夜燈

小牧神崎(小牧町南)の常夜燈

小牧町南に五差路の交差点があって、南東の方向に常夜燈があります。竿石に注連縄をめぐらしています。

とても大きくて、びっくりしました。縄がしてあったのは、ここだけで灯りの部分が木の枠で囲まれていてかっこ良かった。

大矢知の常夜燈

大矢知(大矢知町)の常夜燈

八風街道と呼ばれる道を西へ進むと常夜燈が左側にあります。
文政6年(1823)に大矢知に忍藩の陣屋が置かれると八風街道は年貢米運搬の幹線となり市が開かれていた。

大きい感じがした。車通りが多いのでここに常夜燈があることを知っている人も多いかもしれない。

米洗川の常夜燈

米洗川(八田三丁目)の常夜燈

米洗橋(米洗川)のたもとにある大きな常夜燈は、羽津の常夜燈と呼ばれ旧東海道に建っています。
明治35年(1902)建立で「太神宮」と刻まれている。

街道で一番大きな常夜燈と言われているからすごく大きかった。
100年ぐらい前から建っているのにきれいでした。

川島の常夜燈

川島(川島町)の常夜燈

この常夜燈には天保15年(1844)8月の年号とともに「神明宮」「常夜燈」と刻まれている。

とてもせまい道を何度も通ってやっと見付けました。
普通の大きさで宮立形の常夜燈でした。

日永の追分(追分3丁目)の常夜燈

竿石に「ひだりさんぐう道」と刻む木製の屋根の常夜燈は、鳥居改造時に作り替えたようで現在のものは、昭和4年(1929)の再建である。鳥居の脇には、明治13年(1880)の常夜燈が2基ある。

車がたくさん通っていたけどそこだけは木に囲まれていて歴史のある大切な場所だと思いました。

木製の屋根桧皮葺(ひわだぶき)常夜燈

左側にある水屋は鳥居改造をした昭和4年に追分の地から西の前田町の湧水を引くように整備したものである。

右側「外宮永代常夜燈」と刻まれている

左側「内宮永代常夜燈」と刻まれている

内部川の常夜燈

内部川（北河原田町）の常夜燈

内部川橋の南たもとに天保14年(1843)に建てられたけど昭和14年(1939)に内部川提防改修工事のため撤去、現在は北河原田町に移されている。

細い道を歩いて行って河原田谷川沿いにありました。思っていたよりも大きな常夜燈でした。

永代常夜燈

杖衝坂(采女町)の常夜燈

坂の途中にあるこの常夜燈は、文化8年(1811)に建てられたものです。長い間、木造の火袋が無かったが地元の有志によって新しく作られた。

すごく急な坂の所にあって木造で珍しかったです。まわりに草がいっぱい生えていたので字が見えなかったので残念でした。

宮立形(宮前形)の常夜燈

元八幡神社(山田町)の常夜燈

山田町の元八幡神社にあるこの常夜燈は宮立形で珍しいことにこの常夜燈には鉄製のはしごが付けてあります。

森の中にあるのであまり人が行かないような場所にあって、ぼくの住んでいる町にあるとは、知りませんでした。はしごがあったのはここだけです。現在も順番で燈明を灯し続けています。

楓谷(水沢、宮妻町)の常夜燈

自然石形の常夜燈

「宮妻口」バス停留所の近くに宮妻峡ヒュッテに行く道と楓谷へ下る道の分かれ際に常夜燈があります。竿石に「太神宮」と刻まれていて現在は電球で灯すようになっている。

自然石で造られているので他の所とはちがう感じでいいと思いました。

長明寺の石橋(蒔田2丁目)

以前の石橋は文化(1806)に造られた橋がかかっていた。
長明寺は蒔田城跡であるといわれている。小規模な石橋だけどすべて石造りで太鼓張りの石橋である。

新しい橋になっていてきれいだった。古い橋を見てみたかったです。

羽津の夫婦石(羽津町)

志氏神社の鳥居のそばに道路をはさんで2個の石があります。地元では夫婦石と言われていて石をなでると良縁に恵まれると信じられていたそうです。

志氐神社の常夜燈の横

道をはさんで向かい側

どっちが夫かな?

車で通ると気付かないような気がしました。夫婦石は大切にされていたんだなと思いました。

和泉式部化粧の水(曽井町)

和泉式部が村にある泉で顔を洗ったところ、顔にあったあざがなくなったという話です。熊野参詣の途中、立ち寄りこの泉で水鏡をしたという伝説もあります。

水がすごく冷たくて気持ちが良かった。この水で顔を洗えばきれいになるような気がしました。

和泉式部の生没年や実名は不詳だけど全国各地に伝説が残っているそうです。

曽井の反り橋（曽井町）

曽井町を流れる村下川にかかる小さな石造の太鼓橋があります。保曽井神社の参道の入口にあり天明6年（1786）4月にかけられた。

渡ってみたら小さいのにとても急で転びそうな感じでした。戦争の召集が来た時に安全と勝利を願って反り橋を渡って旅立ったと説明板に書いてありました。歴史ある橋だなと思いました。

生水川の引石(右岸)
(矢合)
西勝寺(智積)の門を入った右側にひとつがあります。
「南無阿弥陀佛・願主 久兵衛」という四日市の人の名前が刻まれている。

生水川(しょうずがわ)の引石(智積町)

四日市宿から三滝川沿いに進み川島を過ぎ高角橋から生水(矢合)川沿いに進んで桜へ行くがその入口は現在の矢合橋の上流約100mにあった石橋で増水すれば足元が危なくなるので200年ほど前に命綱を張った「引石」が両岸に建てられた。左岸の引石は、永年、行方不明だったけど民家で発見された。小さい引石だったけど川を渡る時に助かった人がいたんだなと思いました。

松尾芭蕉の句碑(采女町)

この石碑は、宝暦6年(1756)8月に村田触州が建てたもので長く個人宅にあったが昭和51年(1976)に坂の途中の常夜燈のそばに地元の有志の人々によって移築された。

松尾芭蕉もこの急な坂を登って行ったけど馬から落ちてしまったんだなと思いました。

「歩行(かち)ならば 杖つき坂を 落馬かな」と刻まれている。

調べてみてわかった事

四日市には「力石」が18ヶ所、31個ある事がわかりました。それぞれ色や形がちがっていてつるつるとしていたりザラザラしていたりして色々あるなぁと思いました。
常夜燈も屋根の所がちがう形だったり木製のものがあったりしました。
常夜燈は、神社にしかないと思っていたけど道に建っていて灯りを照らしていたのもある事がわかりました。
石で出来ている物は何百年前の物でもしっかりと建っていて、すごいと思いました。

調べた感想

最初は「力石や常夜燈はそんなにないだろうなー」と思っていたけど四日市には、力石が31個あって常夜燈も神社以外にあるとは知りませんでした。
力石は、神社や寺などの中にあったりして知られてなかったり、気付かなかったりするし、常夜燈もせまい道の所にある物もあって何度も道を通って探したりしました。
知らない道を通っていると本当にここでいいのかなと思ったりしたけど目的の石造物を見付けた時は、すごくうれしくなりました。

楠で力石の場所を案内してくれたおじさんがいて子供の時(50年ぐらい前)に力石を頭の上まで上げた人を見たと言っていました。

力石は、四日市の北の方に多く保存されていて富田、富州原地区などでは、力比べがさかんに行われていたのかなと思いました。

3ヶ所、行くことが出来なかったので残念でした。見てみたかったです。

常夜燈は大きいのや自然石で出来ていたのがあって珍しかったです。宮妻の常夜燈が大きな自然石で出来ていて一番気に入りました。

ぼくの住んでいる小山田地区にも力石と常夜燈があったとは知りませんでした。元八幡神社へはウォークラリーで通った事があったけどその時は、常夜燈に気が付きませんでした。山田町の旧公会所にある力石は、はっきりと場所がわからず近所の人に聞いたりしてもわからずあきらめようと思っていたら自治会の人が知っている事がわかり力石の場所を案内してくれました。
そこは、倉庫の横で草に囲まれていてかわいそうな力石でした。
でも自治会の人が別の場所に移動して、

保存してくれると言っていたのでよかったです。
移動したら時々、さわりに行ってみようと思いました。
石で出来た橋や石碑など歴史ある物を、たくさん見る事が出来て石造物を調べてみて楽しかったです。

参考にした本

三重の力石(三重大学出版会)
三重の力石(岩田書院)

歴史的石造物の調査
(四日市市教育委員会)

四日市市史研究　第7号